マダニが媒介する感染症について

平成２９年５月１日（月）１３時００分

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課
電 話：011-231-4111（内線25-506）

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニ（食品等に発生する「コナダニ」や、衣類や寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など家庭内に生息するダニとは全く種類が異なる）で、ダニ媒介感染症（ライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など）の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。これからの時季、山菜採りや登山・キャンプなどで自然とふれあう機会が増えることから、マダニに咬まれ、ダニ媒介感染症に感染しないよう、道民に広く注意喚起を図ることとしたのでお知らせします。

記

１　道内のダニ媒介感染症について

北海道内で過去に患者が確認されている主なダニ媒介感染症のは下表のとおりです。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	１２～１５日程度	発熱（微熱であることが多い）、倦怠感、慢性遊走性紅斑、希に心筋炎・髄膜炎
回帰熱	７～１０日程度	発熱（３９℃以上）、筋肉痛，関節痛、倦怠感等
ダニ媒介脳炎	７～１４日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎等

これらは、インフルエンザのように容易に人から人に感染して広がるものではなく、水や空気などを介して伝染することもありません。

ダニ媒介脳炎は、ウイルスが混入した生乳を飲んで感染した例がヨーロッパで知られていますが、ウイルスは７２℃１０秒で死滅するため、殺菌処理された市販の牛乳から感染することはありません。

２　予防方法

マダニに咬まれないようにすることが重要です。マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。

屋外活動後は、すぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

３　マダニに咬まれたら

マダニは体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがありますので、医療機関（皮膚科等）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。

また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱、食欲低下、おう吐、下痢等の症状が認められた場合は医療機関（内科等）で診察を受けてください。受診の際は、いつ、どこを咬まれたか、山などに行ったかを医師に伝えてください。

【ダニ媒介感染症の発生状況】

○ライム病の届出件数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
北海道	5	6	9	3	5	0
全国	12	20	17	9	8	1

（人）

○回帰熱の届出件数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
北海道	0	1	1	4	5	0
全国	1	1	1	4	7	0

（人）

○ダニ媒介脳炎の届出件数

これまで国内で、平成５年（１件）及び平成28年（１件）の2件のみ（いずれも道内）。

＊ダニ媒介感染症については、北海道保健福祉部健康安全局地域保健課ホームページ（http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/ticks.htm）においても注意喚起を図っています。

＊道内の感染症発生状況については、北海道立衛生研究所北海道感染症情報センターホームページ（http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html）にて公開しています。